

6
22・23

手を取り合い災害に備える
防災に関する協定締結式

市は6月22日、社会福祉法人登別市社会福祉協議会と「登別市災害ボランティアセンター」の設置及び運営に関する協定締結式」を、同日23日には、特定医療法人社団千寿会、社会福祉法人登別千寿会、社会医療法人友愛会と「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定締結式」を行いました。

『登別市災害ボランティアセンター』の設置及び運営に関する協定』は、市内で災害が発生したとき、地域の復旧・復興と被災者の自立生活を支援するボランティア活動の本部となる災害ボランティアセンターの設置と運営について、必要な事項を定めることを目的として締結したもので、『災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定』は、災害が発生したときや発生する恐れのあるときに、協定先が管理・運営する特別養護老人ホームやグループホームなどの社会福祉施設の一部を福祉避難所として利用することを目的として締結したものです。

式に出席した小笠原市長は、「今後もさまざまな団体や法人などに協力を呼びかけ、いつ起こるか分からない災害に備えていきたい」と話しました。



▲協定締結式の様子（左から登別市社会福祉協議会、千寿会、友愛会）

極限の世界に一年住んでみた
登別ときめき大学

7月11日、市民会館中ホールで『登別ときめき大学 第2回基礎コース講座』を開催し、元第62次南極地域観測隊の伊達元成さんが講演を行いました。

伊達さんは、南極で撮影した写真や動画を交えながら「長い期間を南極で過ごすため、生野菜は非常に貴重な食料。そのため基地の中で野菜を育てていた。ただし、環境破壊を避けるために土の持ち込みができず、水耕栽培で育てていた」など現地での体験について話し、32人の受講生は真剣に耳を傾けていました。

7
11



▲説明を受けながら操作する参加者

便利な機能に驚き
スマホ教室

6月23日、老人福祉センターで老人クラブの会員を対象にスマートフォンの講習会が開催されました。

参加者は、配布されたスマートフォンを、講師の説明を受けながら操作し、音声検索機能を使った割引金額の計算や、現在地の天気情報の確認、地図の検索などを体験しました。

初めてスマートフォンに触れる参加者も多く、「音声認識の精度が高く驚いた。簡単に使えて面白い」などの声が上がっていました。

6
23



▲伊達さんによる講演の様子